

畑久保西遺跡

(相模原市No.277 遺跡)

調査期間	20060701～20070228
	20071116～20071227
	20080501～20080715
	20091101～20101215
	20111016～20120115

所在地 相模原市緑区城山

時代
縄文
(早期・前期・中期・後期)
古墳～古代
中・近世



作成日:20111207

概要

畑久保西遺跡は、相模原市緑区城山四丁目地先に所在する遺跡で、相模川左岸に展開する標高154～157mほどの河岸段丘上に立地しています。「一般国道468号(さがみ縦貫道路)建設事業」に先立ち、国土交通省関東地方整備局相模国道事務所の依頼を受けた公益財団法人かながわ考古学財団が、平成18年度から平成22年度にかけて「本線部分」「植樹帯部分」の発掘調査を実施してまいりました。

平成23年度は、振替道路の完成によってようやく調査の実施が可能になった「市道部分」の調査を実施しています。



▲ 畑久保西遺跡 遠景

今回調査を実施する「市道部分」調査区は、「さがみ縦貫道路」本線の施設部分にあたるため、平成 24 年 1 月半ばまでの予定で最終面(ローム面)までの調査を実施する計画となっています。

本遺跡は、これまで実施した発掘調査によって、中・近世、古墳時代～奈良・平安時代、縄文時代の集落が展開する遺跡であることが明らかになっています。なかでも、発見された遺構数や遺物量が卓越する縄文時代は、本遺跡の中心的な時代といえるでしょう。今回の調査を実施している「市道部分」調査区は、遺跡の北端部に位置しています。「本線部分」調査区に展開していた近世の耕作址の継続部分や、古墳時代～古代に帰属する陥穴状土坑が確認されたほか、過去 5 次に亘る調査では発見できなかった平安時代の竪穴住居址を確認することができました。



▲ 中・近世面全景(南東から)



▲ H1住遺物出土状況(平安時代)